

古典ラテン語を読む

教授 石黒太郎

1. 研究内容

古典ラテン語を学習します。

ラテン語は前1世紀にキケロやカエサルの散文、ウェルギリウスの韻文を頂点とした、古代ローマ人の文語。キリスト教の拡大とともに中世の西欧で共通語 *lingua franca* の地位を確立し、その後も20世紀前半まで、あらゆる学問の基礎となった古典語です。日本における漢文、漢語と、きわめてよく似た役割を果たしてきました。

「人を知り、人を理解する」人文学 *humanitas* という学問は、ラテン語とギリシア語の研究を基本とします。中世から近代の大学ではラテン語で学問をしました。初等、中等教育でもラテン語の学習を通して論理的な思考を養い、文学や歴史を学び、科学的な議論を行いました。何世紀にもわたって積み上げられてきた、この西欧の学問の伝統をすこしだけ、味わってみましょう。

ラテン語は古典語であっても「死語」*lingua mortua* ではありません。今もフランス語やスペイン語、イタリア語などのロマンス語として生きています。英語の語彙の大半はラテン語に由来します。世界で日々つくり出されている新しい商品名なども、その多くがラテン語を源とすることばです。ラテン語の素養があれば、ロマンス語がずいぶん親しみやすくなるでしょう。英語の難解な語彙も自然と身につく、英語の力がつくでしょう。西欧では今でも、ラテン語の素養は「教養人」*literati* の必須条件 *sine qua non* です。

2. ゼミの進め方

《2年次》

古典ラテン語の発音をきちんと把握した上で、ラテン語の基本文法をこつこつと学んでゆきます。合宿は実施しません。小さな演習室を出ることなく、遠い土地の、遠い過去の時代に思いを馳せます。

《3年次》

3年生になっても、さらにこつこつと基本文法を学んでゆきます。順調に進めば秋学期中には基本文法をひと通り終えることになるので、つぎは短い文章を読みます。

文法の学習でも文章の読解でも、扱うのは2000年ほど前の古代ローマ人が書いた原文そのまま、もしくは、ほぼそのままのことばです。知的な時間・空間旅行です。だから合宿は必要ないのです。

《4年次》

さらにさらに、文法のおさらいをしながら、古典ラテン語の文章を読みます。リバティタワー *libertatis turris* の教室にしながら、自由に (*libere*) 古代世界を旅します。そういう教養ある人 *liberalis* に、もはや合宿は必要ありません。

3. 教材

Wheelock, Frederic M. *Wheelock's Latin*. 7th ed., revised by Richard A. LaFleur, Collins, 2011.

この演習室ではこの本のほかに、購入の必要なものはありません。

4. 成績評価の方法

毎回のようにラテン語の文章を英語もしくは日本語に翻訳してもらいます。その課題に取り組む姿勢とともに、基本的な語句と活用変化の習得を小テストなどによって確認し、評価の対象とします。評価の割合としては半分々々となります。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法は、各 Oh-o!Meiji グループの概要欄を確認してください。

6. その他・志願者へのメッセージなど

初習外国語をもう一つ学ぶという覚悟が必要です。教科書は米国の大学で標準的に使われているものです。英語を読むのが億劫に思う人はおやめになったほうがよいと思います。